

福山100NEN教育の 成果と今後の展望は

問 三好教育長の下で平成28年に始まった「福山100NEN教育」は6年目に入る。

従来の公教育にとらわれない学びの変革に向け、ソフト、ハード両面で時代の変化を先取りしたさまざまな取り組みを行ってきた。また、昨年はコロナ禍のため大変な努力が払われた。これまでの取り組みの成果と課題や今後の施策の方向性につ

いての教育長の考えは。

答 本市が実施する全ての施策は「学びが面白い！」と実感する「子ども主体の学び」に向かうものである。各学校は、従来の価値観を問い直しながら全教育活動に取り組んでいる。一方で、学校や教師の枠組みの中での活動にとどまっている状況も見られる。

6年目を迎え「学びが面白い」の深化」をテーマに掲げた。認知の仕組みから学習方法を見直そうとするもので、引き続き「子ども主体の学び」を追求していく。

市民連合



いけがみ
池上 文夫

地域課題に対応する ワンストップ窓口の開設を

問 ①市民が地域の課題について相談できるワンストップの窓口が必要ではないか。

②まちづくりの担い手が不足しているとの声もあるが、対策は

答 ①地域の課題を把握し、相談に適切に対応することは、市民の身近な存在である支所の重要な役割である。市民に寄り添った迅速な対応ができるよう、支所が地域課題解決に向けた調整や企画立案に専念できる組織とする。

②地域活性化会議では、新たな担い手の確保が重要であり、地域のサポーターとなる人を増やすことなどが必要といった議論があった。2021年度は、地域課題を地域外の人に知ってもらうため、地域課題体験ツアーを実施する予定である。

高校生の就職支援策の拡充は

問 ①2月18日、高校生と保護者向けに企業・職業説明会を行ったが、開催状況は。

②市内高校生の就職について、内定状況と課題、今後の方針は。

答 ①高校2年生を主な対象に職業観の醸成と地元企業を知る機会として初めて開催し、市内企業44社が参加した。

市内7つの高校から、生徒263人、教員12人、保護者4人の合わせて279人の参加があり、生

徒から「職業選択の幅が広がった」教員からは「生徒のモチベーションが高まった。今後も継続してほしい」などの意見があった。

②ハローワーク福山によると、内定率は1月末現在92.7%である。また、求人数は昨年9月末時点で2019年度に比べ約2割減少しており、企業の選択肢が少なくなっていることは課題と受け止めている。

今後も、ハローワークや各高校と連携し、出前講座や企業・職業説明会を拡充するなど、高校生の地元就職を支援していく。

新政クラブ



やまぎ
八杉 光乗

産業のデジタル化支援に 向けた取り組みは

問 コロナ禍でテレワーク等の働き方が日常化し、デジタル化が広がっている。本市が取り組むびんごデジタルラボ、ふくやまビジネスキャンプの概要は。

答 びんごデジタルラボは、中小企業などのICT導入や、デジタル社会に取り残される市民を出さないことを目的に、ものづくりや地域活動などテーマ別に議論するものである。テレワークの導入やオンライン採用活動を実施する企業の増加などにつなげる。

ふくやまビジネスキャンプは、デジタル人材の育成を目的に、ICT企業の経営者やエンジニアを招き、市内企業や学生との交流の場を設けるものである。経営者の意識改革や、未来を担う若者のキャリア形成につなげていく。